

平成13年度 政策評価書（中間段階の事業評価）

担当部局：運用局訓練課
実施時期：13年6月～8月

事業名：米国における射撃訓練

政策分野：自衛隊の効果的な運用（訓練）

事業内容：陸上自衛隊は、様々な火器を装備した部隊を編成し、練度の向上に努めているが、多連装ロケットシステム（MLRS）、戦車、多目的誘導弾システム（MPMS）等の装備品については、国内演習場が狭隘である等の理由により、国内演習場で当該火器等の機能を最大限に発揮できない。このため、制約の少ない米国の演習場に部隊を派遣し、実戦的な実射訓練を実施する。

所要経費：5.8億円

評価の内容

1. 事業の目的

着上陸侵攻に対処するためには、多連装ロケットシステム、戦車、多目的誘導弾等の火器を引き続き整備し、これらの火器を部隊が効果的に運用するために、日々訓練を実施し、部隊の練度の維持・向上に努めることが必要不可欠である。

しかしながら、国内の演習場では、面積の制約上、射撃距離が十分確保できず（我が国最大の矢白別演習場でも最大射撃距離が18km）、また、射撃の陣地や方向を大きく転換できないこと等から、当該火器の機能を最大限に発揮させた状態で、実戦的な実射訓練を行うことができない。

本事業は、制約が少ない米国の演習場（ワシントン州ヤキマ演習場（最大射撃距離が30km））に部隊を派遣し、実戦的な実射訓練を行うことで、戦車部隊等の単独の部隊による射撃や、普通科部隊と戦車部隊等による相互連携の下での射撃・機動の実施等、任務遂行に必要な部隊の射撃能力を維持・向上を図るものである。

2. 事業の必要性・適正性

（1）当該事業の位置付け

防衛庁の政策分野及び上位の事業体系における当該事業の役割

中期防衛力整備計画において、敵の着上陸侵攻対処として、多連装ロケットシステム、戦車、多目的誘導弾等の火器を整備することとされており、これらの火器を使用した部隊の射撃能力を確保するため、制約が少ない米国の演習場で実戦的な実射訓練を行うものである。

防衛庁が当該事業を実施する理由
陸上自衛隊は、着上陸侵攻に際し、敵を撃破できるよう様々な火砲を装備し、これらの火器の特性を活かした上で、部隊として総合的に運用し、その射撃能力や戦術技量の向上を図ることが必要である。こうした日々の訓練を積み重ねることで、我が国の平和と安全が確保されることになる。
敵の着上陸侵攻に対して火砲等により対処し、我が国の国土の平和と安全を確保する主体は、防衛庁・自衛隊のみである。

(2) 当該事業の必要性

既存の装備等によらない理由
近年、装備品の開発が進み、射距離が長くなる等、性能が大幅に向上していることに伴い、国内の演習場では広さの面で十分確保できず（我が国最大の矢臼別演習場でも最大射撃距離が18km）、また、射撃の陣地や方向を大きく変更できないこと等から、その性能を十分に発揮した実弾射撃訓練を行うことができない。
具体的には、射撃を行う場所までの移動、同地点での射撃準備、射撃場所においての目標確認、実弾射撃訓練（特に、最初の目標への射撃がはずれた場合の照準の修正等）及び射撃後の陣地変換等が、国内の演習場では十分実施できない状況である。
また、国内の演習場で射撃訓練を行う場合、周辺地域の住民等との関係で、騒音等の環境問題に対しても配慮する必要がある。
さらに、戦車等は練度を維持・向上させるために、可能な限りシミュレーターを用いた訓練を行っているが、シミュレーターの精度が向上してきているものの、実射訓練と全く同一の状況を再現できないため、シミュレーターによる訓練だけでは不十分であり、実射による訓練が必要である。
こうした状況に対し、広い面積が確保できる米国の演習場で射撃訓練を行うことにより、戦車部隊等の単独の部隊による射撃訓練や普通科部隊と戦車部隊等の部隊間における相互連携の下での機動を伴う射撃訓練が実施でき、部隊の練度向上が図られる。
それ故、火器等の機能を最大限に発揮する実戦的な射撃訓練を、平成4年度から米国の演習場で実施してきている。

代替手段との比較検討状況

上記に示した理由から、国内において代替演習場の確保及び代替方法による射撃訓練の実施が困難である。米国での射撃訓練は、ワシントン州ヤキマ演習場で実施しているが、同演習場には、コンピューターにより射撃目標の位置が操作可能な戦闘射場が存在し、実戦的かつ効率的な射撃訓練を行うことができる。また、同演習場を利用する場合、交通インフラの関係上、装備品の荷役及び集積に効果的であり、それ故、人員・装備の移動に要する時間が短い。
以上のことから、同演習場で訓練を実施することが最適であると考えられる。

(3) 当該事業における装備品等の数量等の事業内容の必要性・妥当性

これまで、米国における射撃訓練では、国内演習場が狭隘である関係上制約が生ずる火器の射撃訓練に対し、その訓練に最低限必要な基本単位である1個小隊を米国に派遣している。平成14年度においても、以下の装備品について、部隊射撃能力を保持する観点から、それぞれ1個小隊規模の訓練を米国で実施するものである。

- ・多連装ロケットシステム：広地域目標に対する同時制圧の射撃や目標変換を伴う射撃が行えない。
- ・90式戦車：走行間射撃、稜線上の目標に対する射撃及び目標変換を伴う射撃が行えない。
- ・96式多目的誘導弾システム：遠距離目標射撃、広地域目標に対する同時制圧の射撃並びに目標変換及び回り込みを伴う射撃が行えない。
- ・対戦車誘導弾：遠距離目標射撃、目標変換を伴う射撃といった基本的機能を発揮するための射撃が行えない。

- ・対戦車ヘリコプター：遠距離目標射撃、目標変換を伴う射撃及び地域を制圧するための射撃が行えない。

3．事業実施の効果・時期

(1) 実施効果

国内では演習できない火砲の最大射程による射撃訓練、大きな方向転換を伴い、広い面積を必要とする射撃訓練、普通科部隊と戦車部隊等といった他職種が連携して行う射撃訓練の練度の向上を図ることができる。

(2) 実施時期

部隊の練度の維持・向上のため、平成4年度から継続的に実施しているが、平成14年度においても従来と同様実施する。

今後の対応

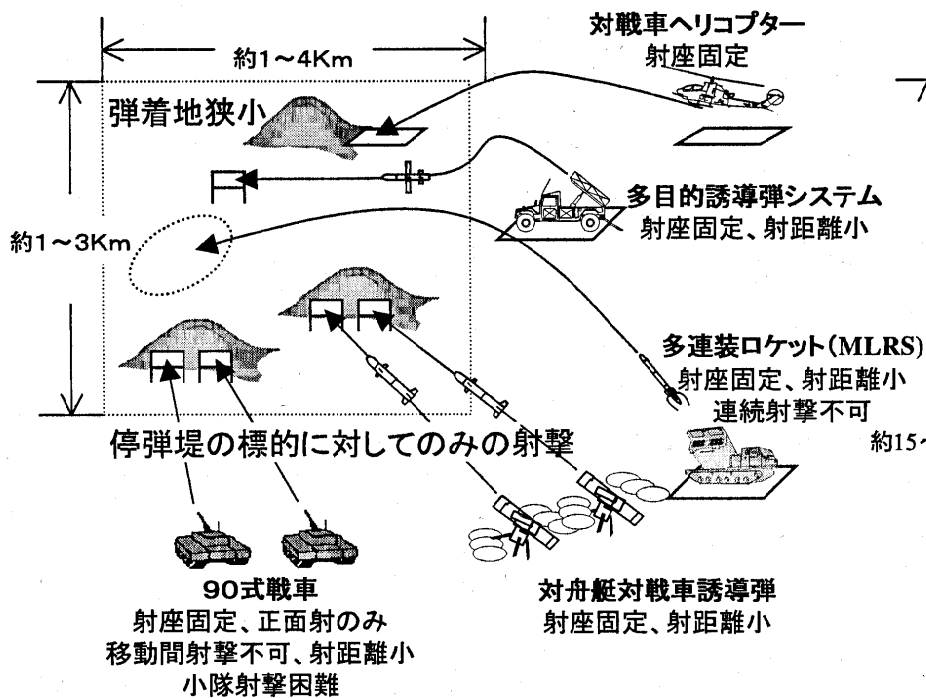
部隊が実戦的な射撃を念頭において訓練を実施し、部隊の練度の維持・向上を図るため、今後とも引き続いて実施することを予定している。

その他の参考情報

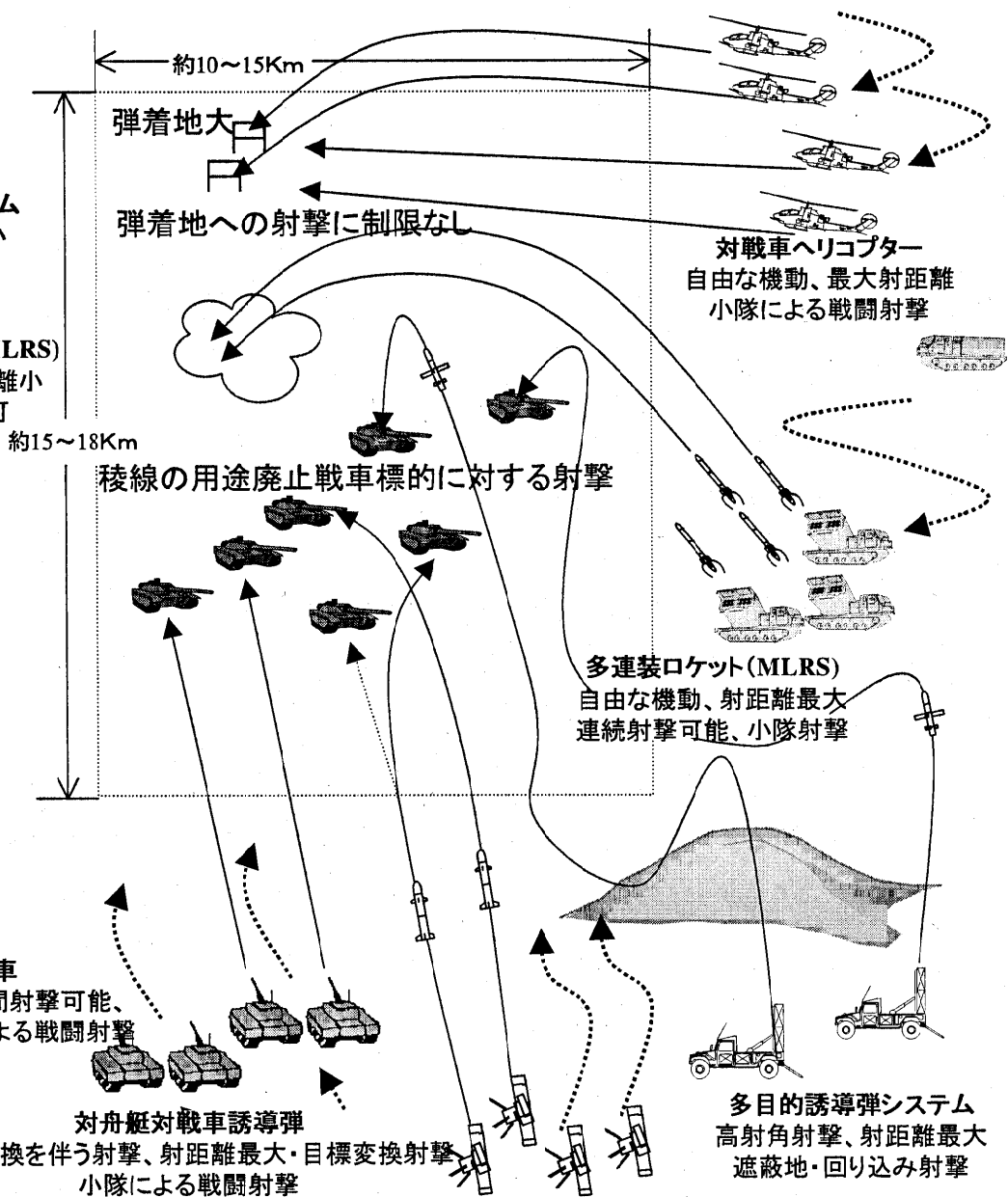
別添資料を参照。

国内射撃と米国における射撃の相違

国内射撃(各火器の能力発揮に制約を受ける射撃)



米国における射撃(各火器の能力を最大限発揮できる射撃)



多連装ロケットシステムMLRS



敵部隊や上陸用舟艇等の広域目標を瞬間的に撃破できる特科火力

略称:MLRS

愛称:マルス

諸元、性能

ロケット弾(多目的弾:644個子弾内蔵)

全長	:	約3,900mm
直径	:	約227mm
重量	:	約306kg
最大射程	:	約30,000m
自走発射機	:	
乗員	:	3人
全長	:	約7.0m
全幅	:	約3.0m
全高	:	約2.6m
全備重量	:	約25 t
最高速度	:	約65km/h
機関	:	500馬力、水冷4サイクルディーゼル

9 0 式 戦 車



国産のハイテク装備により走行間でも迅速・正確な射撃ができる。

略 称:90TK
愛 称:キューマル

諸元、性能

乗員	:	3人
全備重量	:	約50t
全長	:	約9.80m
全幅	:	約3.40m(スカート付)
全高	:	約2.30m(標準姿勢)
登坂能力	:	$\tan \theta$ 約60%
旋回性能	:	超信地
最高速度	:	約70km/h
エンジン	:	水冷2サイクル10気筒ディーゼル機関 1,500PS/2,400rpm

96式多目的誘導弾システム



対上陸戦闘において上陸用舟艇等を、地上戦闘においては、敵戦車等を撃破する

略 称:MPMS

愛 称:96マルチ

諸元、性能

全長	:	約2m
胴体直径	:	約160mm
重量	:	約60kg
誘導方式	:	光ファイバTVM(Track Via Missile)赤外線誘導方式

79式対舟艇対戦車誘導弾及び発射装置



敵の上陸用舟艇や戦車等を遠距離から撃破するミサイル

諸元、性能-

誘導弾

全長	:	約1.57m
胴体直径	:	150mm
重量	:	33kg
速度	:	約200m/s

A H - 1 S



対戦車戦闘能力を有するヘリコプター

略称:AH-1S
愛称:コブラ

諸元、性能	:	
乗員	:	2人
機体	:	
全幅	:	13.4m(ウイングスパン3.28m)
全長	:	16.16m(胴体13.59m)
全高	:	4.19m
ローター直径	:	13.41m
エンジン	:	
名称	:	T53-K-703
出力	:	1,485SHP(連続)×1
最大全備重量	:	4,536kg
最大速度	:	315km/h
巡航速度	:	228km/h
航続距離	:	456km
実用上昇限度	:	3,960m